

令和7年度 荒土地区市長と語る会 議事要旨

- 日 時 令和7年8月29日（金）午後7時00分～午後8時50分
■場 所 荒土まちづくり会館
■出席者 39名
■意見交換会でのテーマ：地域防災について

1. 市政報告会

2. 意見交換会

1) 地域防災について

事前質問	勝山市全体で防災組織と防災士の数、またその役割について教えてほしい。
回答	自主防災組織について、市全体で78組織あり、荒土地区は12組織が構成されている。徐々に増えており、約7割の地区が設立されている。防災士は市全体で337人、荒土地区では34人資格取得している。公助だけでは地域を全て細かく守るには限界がある。自助で自分自身の備えを、共助では地域で助け合う。その共助の要となるのが自主防災組織である。複数の区と一緒に組織しているところもあり、災害基本法でも推奨されている組織である。防災士は専門知識を持って地域の防災を担っていただく方として活躍を期待している。自主防災組織の役割は、平時は防災の知識普及、防災訓練や防災安全点検の実施、防災資器材の備蓄と点検といった活動。災害時は初期消火や避難誘導負傷者の救助救出防護、災害情報の収集など様々。公助をカバーする活躍について期待している。
事前質問	にこにこ地域づくり交付金とは別に、防災運営基金があるとよい。
回答	にこにこ地域づくり交付金について、荒土地区では非常に計画的に使っていただいている。この基金とは別に防災運営基金を、ということにはにこにこ地域づくり交付金だけでは足りないという意味なのだと思う。自主防災組織の設立補助金や、活動補助金、備品や資機材購入補助もある。毎年対象になるわけではないが、計画的に補助金を使っていただきたい。他の地区ではにこにこ地域づくり交付金を防災資機材の整備に活用しているところもある。
事前質問	小学校に防災備蓄品の保管をしていないのはなぜか。
回答	現在、福井地震レベルの地震が起きたという想定では、勝山市では約1,700人が非難すると想定している。1,700人の3日分の食料を備蓄できるよう計画している。今はまちづくり会館を中心に避難所としているので、備蓄用品はそこに備えている。食料の他、テントやベッド等の備蓄品も少しずつ購入しており、市内10地区のまちづくり会館を優先に備蓄して、現時点では小学校等に備蓄できる数量がないため、整備が進んだ段階で順次、小学校等に備蓄していく。

2) 自主防災組織の補助金について

質問	防災組織を組織した際に防災補助金を使って備品を買ったが、その後5年間補助金を使用できないのを何とかしてほしい。
回答	以前は1回限りだったものを改善した結果である。庁内でもそういったご意見があったと共有し、今後検討していきたい。
回答	この補助金の5年縛りについて改善要望があったことを受け止めて検討していきたい。

3) 救急車の利用について

質問	高熱や怪我等になった方から区長に対応相談の電話がくる時がある。救急車を呼ぶように指示すると、家族の中に救急車を呼んだら消防署から怒られると思っている方がいて、救急車を呼ぶのに抵抗があるようだ。
回答	救急車を呼んで怒る職員はいない。安心して必要な時は呼んでほしい。もし呼ぶかどうか迷うときは、#7119にかけると救急車を呼んだ方が良いかアドバイスをもらえるので活用いただきたい。
回答	救急車の利用については、都心部等でタクシー代わりに利用している事例は確かにあって話題になっていたりするので、それが悪影響担っているのかと思う。救急車を呼んで怒ることはないので、遠慮なく利用いただきたい。

4) 荒土公園のモルック専用コートについて、モルックの普及について

質問	今、荒土はにこにこ地域づくり交付金を利用して、荒土公園にモルックのコートを整備した。夏場は暑すぎて利用できないが、屋根があれば利用できる。ゲートボールでの利用や災害時には簡易避難所や集合場所といった拠点としても利用できると思う。地域交流と防災インフラとしても良いものだと思うので、ぜひ荒土公園にドーム型屋根の設置をお願いしたい。
----	--

回答	既存の公園に屋根をかけることは莫大な費用がかかる。費用が大きいからしないというわけではないが、意見・要望として持ち帰らせてもらう。令和9年3月末で中学校の閉校が決まっており、跡地利用の中でモルックもできるようにといったやり方もあると思う。
質問	先日、福井テレビに日本で初めてのモルック専用コートが勝山市にできたと放送されて、一生懸命盛り上がっている。コートについては練習の他、メンバーが自主的に整備をしているが、日中は暑くてできないのが現状。投光器等を持ち寄って夜7時から9時過ぎまで練習やコートの整備をやっている時もある。周りの外灯が点かないものもあって薄暗い。屋根は難しいかもしれないが照明を整備してほしい。
回答	費用のことは大きいからできないというわけではない。中学校跡地利用の中でも検討できるというのは事実。いろんなやり方があると思っている。日本初のモルック専用コートと初めて聞いて嬉しく思う。モルックができる場所を地元の方が一生懸命頑張っているの、何らかのことは考えたい。モルックができる公園として実態を見ながら整備を検討していきたい。少し時間をいただきたい。
質問	私は90歳になるが、モルックを通して若い方や団体のメンバーと本当に楽しく活動している。モルックは若者から高齢者まで楽しめる面白いスポーツなので是非広めたい。市長も是非やってみていただきたい。
回答	モルックは知っているが、実はやったことはない。昨年社会福祉協議会が主催で大会を大々的に開催されていたのも印象に残っている。幅広い年齢ができるスポーツだとのことなので、屋内でできるような整備も考えていきたいし、普及についても考えていきたい。

5) 太陽光設備導入に関する補助金について

質問	太陽光の補助金が市から出ているが、どれくらい利用されているのかお聞きしたい。私は昨年話を聞いたときに、対応できるメーカーがなく、保険が効かないと言われた。
回答	今年度で4件、1件あたり60万円程度の補助申請がある。メーカーの話は分かりかねるが、何かあればご相談いただきたい。

6) 結婚支援について

質問

周りを見ていると団塊世代より下の方に未婚の方が多い。少子化の前に非婚について何とかしないと駄目だと思う。他の自治体ではAIを使ってマッチングしたら上手くいっているという事例を見た。市として結婚支援についてどのような対策をされているのかお聞きしたい。

回答	以前から結婚相談員による支援は行っている。今、市内で結婚支援を積極的にする民間の方も出てきて、いろんな婚活イベント等を市が支援している。県が導入しているマッチングアプリに対しても推奨している。結婚するしないは個人の自由ではあるが、個人的には結婚して子どもを生んでほしいという思いがある。そういったことをストレートに言える時代ではないのも事実なので、結婚したくなるような地域づくり、子どもを産んで育てたくなるようなまちづくりを進め、婚姻数の上昇や若い女性が帰ってくるようなことを目指していきたい。また皆様からもアイデアがあれば教えていただきたい。
----	---

7) 災害時の凝固剤について

質問	能登半島地震の際、七尾市に水がないという情報があったので水を持って行ったが、水は充足していると言われた。それよりもトイレの凝固剤が欲しいという声を聞いた。トイレに行きたくないから水を飲まないといった問題も出てくる。そういったことを防ぐには凝固剤が必要だと思うがどうか。
回答	自身の知見からのご意見ありがたい。凝固剤の配置はしっかりやっていきたい。今年はトイレカーを2台発注している。勝山市でも万が一下水が崩壊した時を想定する必要があると思う。避難所でのトイレの配置や動線のことも含めて、トイレ問題は能登半島地震の知見を活かしてしっかりやっていきたい。トイレカーはイベント時に活用いただけるように、普段から皆さんに使っていただきたいと思っている。導入したら皆さんにお声掛けしたい。

8) 廃業後の廃墟や空き家の対応について

質問	スキージャムや星野リゾートの話など素晴らしい地域計画を聞いたが、今後倒産・破産する可能性もゼロではない。荒土でも、倒産・破産により相続問題から空き家や耕作放棄地が多くなっている。田んぼや畑の荒れ地に関して、草刈り等は区長やまちづくり委員会で対応していたが、高齢化によりかなり負担になってきている。 また、農協の北支店もなくなり、北部中学校も廃校になる。近くに飲食店もあったが今は廃業している。今後、都市計画を決めて整備しないと、地主にとっては荒れ地や廃墟が残って固定資産だけ取られるような状態が多くなっている。この問題を何とか解決してもらいたい。
回答	この場で解決できる問題ではない。市内では空き家が約500件ほどあり、それが荒れる前にどう活用していくかを考えている。農地に関しても、農地が荒れれば農村が崩壊するので、農業を守ることが地域の維持につながると、支援をしながら注意深く見守っているところ。中学校跡地の件に関しても、まずは土地を買取して活用方法を決めていきたい。地権者には交渉に入っており、取得できた箇所から民間への売却を検討していく。公共施設として使用することが難しいが、ただそのまま地権者へ返すようなことは考えていない。民間に対して貸した問題については持ち帰って検討していきたい。